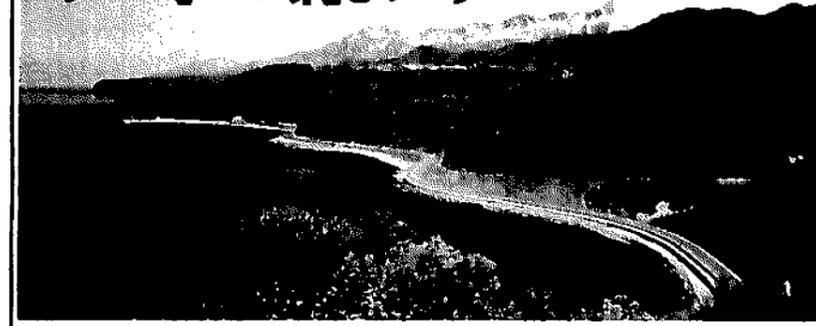
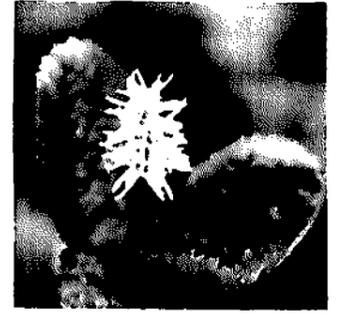


知床の森から



北海道森林管理局北見分局 〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町 1 1 番地
知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



ヒトリシスカ ヒトリシスカ科
高さ 15 ~ 25 cm の多年草
低山の林内で見られます

今年度最初のイベント、第26回「森とのふれあい」『森の手助け・植樹と炭焼き体験』を5月16日(日)に実施しました。

今回のイベントは、北海道国土緑化推進委員会から「緑と水の森林基金」事業助成金を受けての植樹と炭焼きを行う体験林業です。当日の参加者は25名で、家族や夫婦での参加も多く見られました。

午前中は知床の山で「植樹」、午後から知床森林センター事務所敷地に場所を移して「炭焼き」を体験して頂くとともに、今回から新たにセンターで作製した木炭を使った焼き肉での昼食も加わりました。

第26回 森とのふれあい

森の手助け・植樹と炭焼き体験

植樹木はアカエゾマツ200本です。朝方は曇っていた空も、段々と日が射し植樹には丁度良い天候となりました。

殆どの参加者は植樹が初めてで、鍬で穴を掘るのを大変苦労していました。

7歳の子供さんの参加もあり、自分の伸長より大きな鍬に悪戦苦闘して植えている姿に、横から見ている母親の優しい心遣いも見られました。

午後からは、センターに設置した炭焼き窯で炭焼き体験です。参加者の皆さんには、原木を切る作業から窯に詰めて着火までを体験して頂きました。

あらかじめセンター職員が炭焼きをして用意していたもう1台の窯から木炭を出し焼き具合について見てもらいました。

原木切りや、窯口閉めの粘土塗りでは「幼少に返ったみたい」だとても喜んでおり、簡単に炭焼きが出来ることも実感されたようです。帰りには、参加者全員に出来上がった木炭を持ち帰っていただき一日の新しい体験を楽しく終えることが出来たようです。

なお、昼食は自家製の木炭を利用した「焼き肉」と「おにぎり」です。午前中の力仕事を終えた皆さんは、センターで作製した木炭で早速焼き肉を始め、自家製の木炭と市販の木炭の火力を比べる人や、一生懸命お腹の空腹を満たす人などにぎやかな昼食風景となりました。



センターに可愛いお客さん!

5月18日知床森林センター事務所に、可愛いお客さんが来所されました。

このお客さんは、斜里町立朝日小学校5年生9名です。

朝日小学校では、子供達が環境との出会いを通じ自分たちで春の食材を探すこと・調べてみることで、また、その学習の過程で、地域の人々に聞いたりする事で人とのふれあう楽しさや、新たな学び方を気づいてもらうために行っています。

5年生は、自分たちでどこに聞きに行けば解るのかを調べ、その内の9名の子供達が知床森

林センターに訪れました。

子供達は早速、山菜はどのような場所に生えているのか、食べてはいけないものがあるのか身近にはどのような山菜があるのかを質問し、持ってきたメモ帳に熱心に記載していました。



(山菜について熱心に質問する朝日小の生徒)

まぼろしの「ボンホロ沼」位置は、斜里町ウトロから知床峠、羅臼町に向かう国道334号線を、1.5Kmほど峠に向かい、途中から600mほど山にはいった盆地にあります。この沼は、春先の雪解け水が一時的に溜まってできる沼で広さは幅が約90m深さ約90cmの楕円形で、辺りが木々に囲まれた開けた所にあります。



(ボンホロ沼からラウス岳を望む)

沼の縁を通り対岸に向かい振り返ると、そこからは残雪の残る羅臼岳(1,661m)の勇姿が近くに迫って見られます。静かに行んだ水面と青い空、周囲の樹々、芽吹きだした新緑が水面に映り、ウグイスの鳴き声も聞こえ、静かで澄みきった辺りの雰囲気は神秘的な様相を表し心を和ませてくれます。春先には、エゾアカカエルが産卵のために沼の周囲に集まり鳴き声をあげ、今は産卵を終えたカエルが周囲の笹原をはっていたり、オタマ

ジャクシガ黒く集団で見られ水中を泳いでいます。積雪量と気温にもよりますが、例年7月初めには水が濁れます。

後には、シソ科のエゾシロネとヒメシダが一面に生え、この濁れた沼の縁の一面で、羅臼岳を望みながら弁当は最高です。

秋になると、ヒメシダが紅葉し絨毯のように染まり、周囲の樹々の紅葉とともに秋を迎える山々の様子も楽しめる秘めた場所で、今年もここ教育林を利用した森林レクリエーションを夏と秋に行ないます

